

【外国語活動・外国語科】

1 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	知識・技能の問題は正答率が目標値を上回っている。 特に「単語や表現の意味理解」では、身近で簡単な語句のヒアリングと意味の正答率が高く、理解できている。	思考・判断・表現は、目標値及び区の平均正答率を上回っている。 特に「会話全体の理解」では対話を聞き、目的や場面、状況を推測し表現する問題の正答率が高く、場面の想起と表現する力が高まっている。	主体的に学習に取り組む態度については、目標値及び区の平均正答率を上回っている。 特に場面や情報を表現する際、例文等を用いて表すことができている。
課題	全項目で目標値及び区の平均正答率を上回っている。しかし、「聞く」の領域において課題が見られる。日常生活に関する対話を聞いて、目的や場所、状況などを推測する問題や、道案内や買い物の場面など具体的な状況を聞き取り、理解する問題では目標値をわずかに超えてはいる程度である。だから、動きや音を使った活動を通して、定着を図る必要がある。		

2 授業の具体的な改善策

教科目標	新学習指導要領の教科の目標 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けられるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら。主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などが明確な言語活動を設定する。 ・身近で簡単な事柄について聞いたり、話したりする活動を充実させる。 ・外国語の文化について聞く場面を増やし、知る機会を設ける。
学年段階別改善策	
低学年	・歌やゲームなどの活動を通して、言葉に慣れ親しみながら学習できるようにする。 ・挨拶や数、色、食べ物など身近なものの言い方や聞き方に親しみ、教師の後に続いて言ったり、音楽に乗せて発音したりする活動を通して、自然と声に出すことができるようにする。
中学年	・歌やデジタル教材、動画を通じて、様々な国の言葉や習慣・文化を知り、興味をもって学習に取り組めるようにする。 ・友達とインタビューをしてコミュニケーションを取る活動につなげたり、ゲームをしたりするなど、聞いて表現する活動を多く取り入れる。
高学年	・基本表現や単語リズムにのったり、ジェスチャーをつけたりしながら、納得できるまで繰り返し聞いたり、発音したりすることで、自分の考えや気持ちを伝える活動を取り入れる。 ・耳から聞こえてくる英語音声を書き起こすディクテーションやインタビューを活用して、聞き取る量を増やし、積極的にコミュニケーションを図れるようにする。